

## 評価シート 様式

取組名	ゆいのまちづくり戦略会議		
実施団体名	ゆいのまちづくり協議会	対象地域	愛知県 東栄町
(代表団体名)	特定非営利活動法人ななさとぐるーぷ	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
			提案者は、取組を踏まえた反省点として、特に自治体の対応について改善が必要としているが、これはむしろ行政への要望に近く、協議会としての実施体制としては問題ないと判断できる。
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	ゆいのまちづくり戦略会議		
実施団体名	ゆいのまちづくり協議会	対象地域	愛知県 東栄町
(代表団体名)	特定非営利活動法人ななさとぐるーぷ	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 コミュニティづくり、定住者支援、規格外農産物の有効活用地産品づくりといった取組に地域一体となって取り組んでおり、複合性が評価される。また、規格外農産物の効率利用については、都市部との連携のきっかけともなっており、先導性・モデル性のある取組であるとともに、都市での取組にもつながるなど、相乗効果・波及効果も認められるものである。
	○ 評価
	■ ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	□ 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	□ ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、山村における定住者支援や規格外農産物の供給ルートの開拓において早々に成果を出すなど、山村と都市の協働モデルの構築をしつつある点で地域活性化に寄与する取組であると評価できる。今後は、以下の内容について地方の元気再生事業を継続することにより一層の取組展開が期待できるものである。
	20年度の成果を踏まえ、地方の元気再生事業による支援としては、定住者支援と都市との連携に重点化することが適当である。特に、都市部において活動を行っているNPO法人「エコデザイン市民社会フォーラム」との連携にむけ、関係者間で調整が行われていることから、これを実現し最大限に活用することが期待される。具体的には、情報発信や、宿泊体験施設、実験農園、農地管理組織を運用等の取組を両者が一体となって取り組むことにより、山村と都市の協働モデルの本格展開が図られると考えられる。